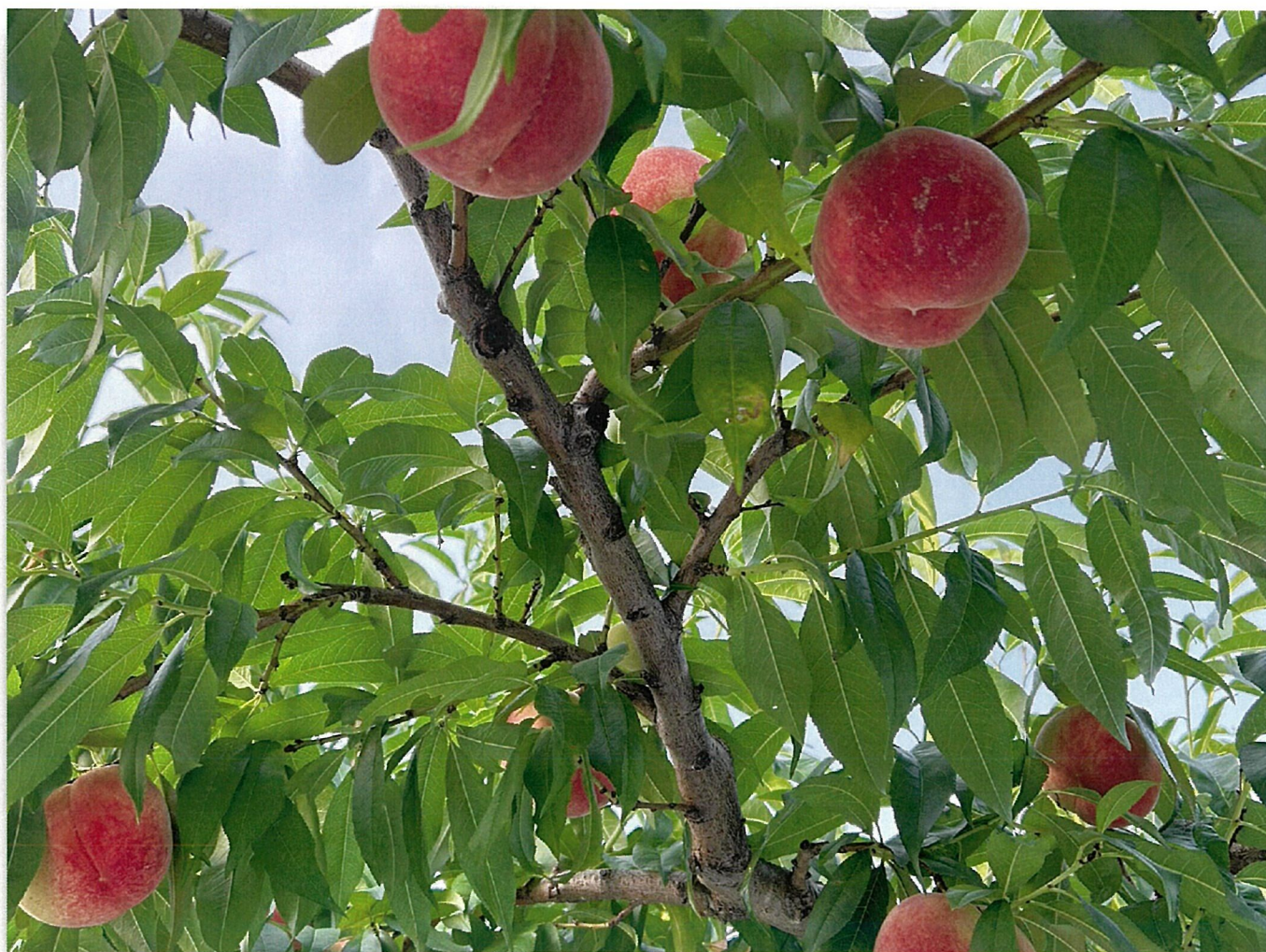

山梨のもも収穫量ピンチ！

福島県に越される？

山梨県桃の収穫量全国トップの理由や減少の背景について

加納岩小学校6年 藤原優衣



桃の収穫量ピンチ！ 福島県に越される？

山梨県桃の収穫量全国トップの理由や減少の背景について

1 研究のきっかけ

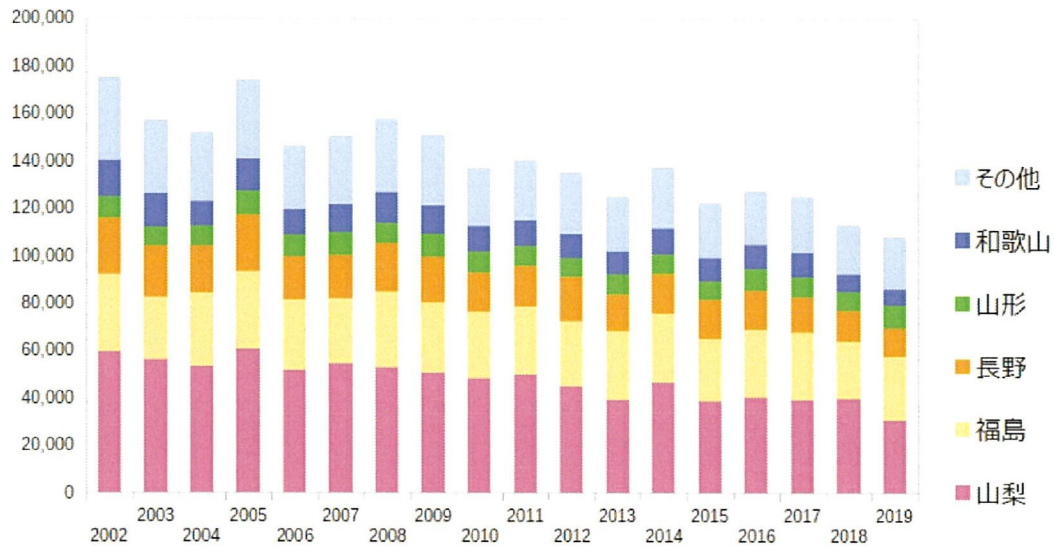
山梨の桃の収穫量「日本一」の座に黄色信号というニュースを見ました。山梨県の桃の収穫量は59年間連続トップですが生産量が減少し、来年発表される今年の生産分で福島が山梨を上回る可能性が出てきているそうです。このことを知って、山梨の桃が一番と思っていたのでとてもびっくりしました。越されてしまうのは、とても残念です。私は、どうして山梨は桃の生産が盛んなのか、なぜ減少しているのか調べたいと考えこのテーマにしました。

2桃の生産量と現状

山梨県のホームページによると、山梨県では明治33年に南アルプス市西野地区において今の生産につながる桃が導入され、大正中期に山梨市の一町田中、大正末期に笛吹市一宮町でももが導入されました。山梨県で桃の栽培が収穫量が急速に普及したのは昭和30年代のことだそうです。養蚕業の衰退に伴って、桑畑が次々とももや葡萄の果樹園と姿を変えました。そして山梨県の桃の生産量が日本一となったのは昭和41年のことです。それ以来、山梨県の桃生産量は59年連続日本一です。

(山梨県ホームページ <https://pref.yamanashi.jp/oishii-mirai/>)

食品データ館ホームページ <https://urahyoji.com/crops-peac>



日本のもも生産量の年次推移 (単位：トン)

年次	全国	山梨	福島	長野	山形	和歌山	その他
2002年	175,100	59,100	32,800	24,000	8,920	15,200	35,080
2003年	157,000	55,800	26,800	21,500	7,750	14,000	31,150
2004年	151,900	53,400	30,700	19,800	8,650	9,870	29,480
2005年	174,000	60,200	33,100	23,800	9,930	13,800	33,170
2006年	146,300	51,600	29,800	18,100	8,830	11,000	26,970
2007年	150,200	54,100	27,800	18,100	9,360	12,200	28,640
2008年	157,300	52,800	31,800	20,200	8,940	13,000	30,560
2009年	150,700	50,200	30,100	19,000	9,650	12,100	29,650
2010年	136,700	47,900	28,200	16,800	8,870	10,900	24,030
2011年	139,800	49,500	29,000	17,000	8,520	10,500	25,280
2012年	135,200	44,800	27,500	18,500	7,840	10,100	26,460
2013年	124,700	39,100	29,300	15,400	8,080	9,590	23,230
2014年	137,000	46,500	29,300	16,300	8,170	10,800	25,930
2015年	121,900	38,600	26,600	15,900	8,190	9,360	23,250
2016年	127,300	39,900	29,300	16,100	9,180	9,870	22,950
2017年	124,900	39,200	28,600	14,500	8,680	10,200	23,720
2018年	113,200	39,400	24,200	13,200	8,070	7,420	20,910
2019年	107,900	30,700	27,000	12,000	9,350	7,080	21,770

表：日本のモモ（桃）生産量の推移（単位：トン）

農林水産省データ <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka-gaijyu/>

図2 ももの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

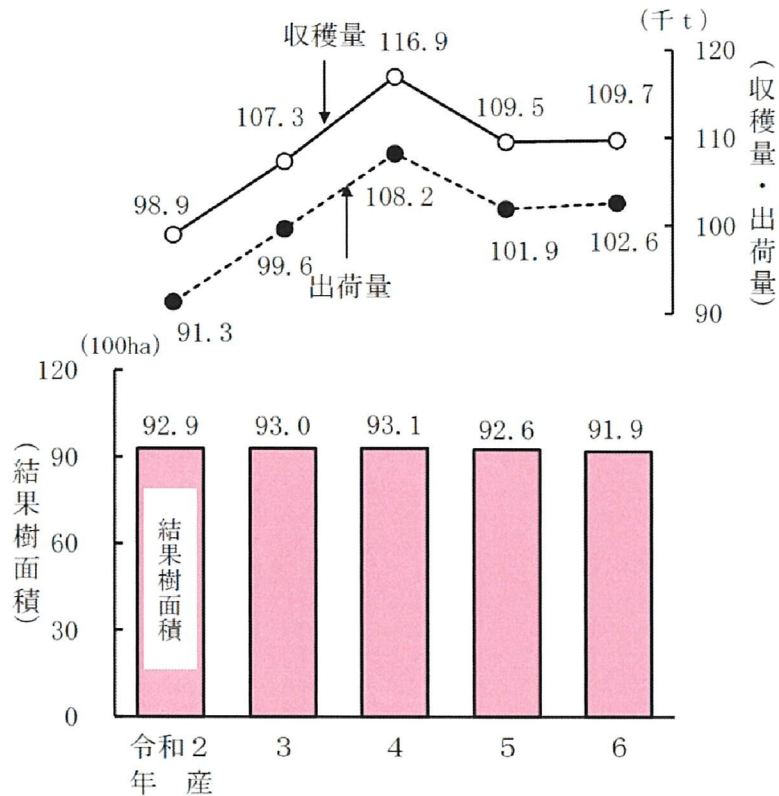
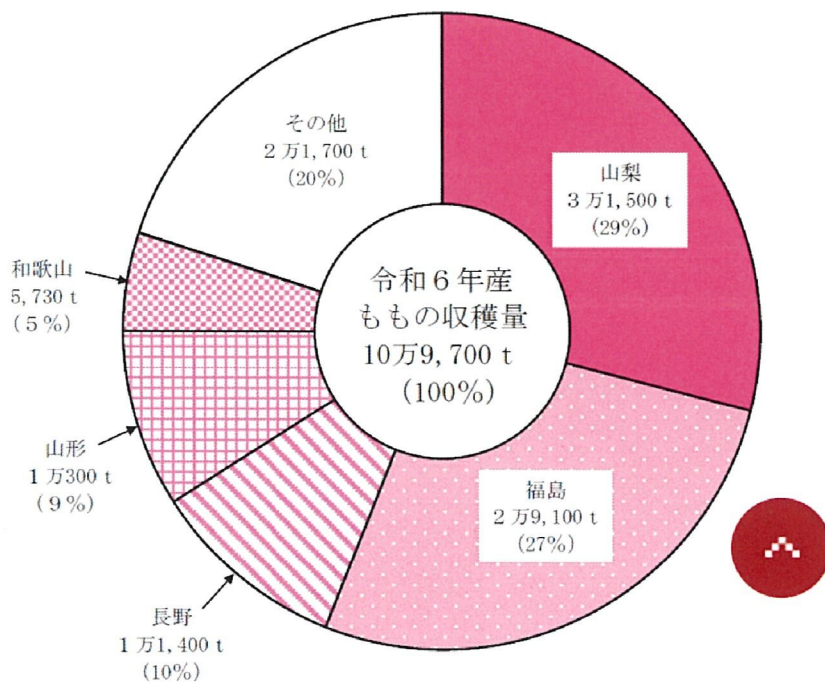


図3 ももの都道府県別収穫量及び割合



【グラフを見て分かること】


- ・ 2002～2019を比べると日本全体の生産量は少なくなっている
- ・ 2002～2019まででどんどん山梨の生産量は少なくなっている
- ・ 山梨の減少スピードが福島より早い
- ・ 最初の頃は山梨と福島の差が大きかったけど最近はあまり差がない
- ・ 山梨県は生産量の約30パーセントを占める
- ・ 山梨と福島の差は2パーセント
- ・ 東北地方の生産が多い
- ・ あと1,400 t で福島に越される
(大体1,400 t は約560万個)
- ・ 結果樹面積は大きく減っていない。
(生産量が減っているのになぜ)

3農家さんへインタビュー


私の祖父は、桃と葡萄を栽培するベテラン農家です。祖父にインタビューして、なぜ山梨の桃の生産量が減っているのかを考えました。

祖父 77歳 甲州市で桃と葡萄を祖母と二人で栽培


1 桃農家になったきっかけは何ですか？

 若い頃からお祖父さんの畑を手伝っていた。子供のころは、野菜や柿畑が多かったが、桃も栽培していた。大学を出て会社勤めをして、兼業で農業をしてきた。定年退職後に専業農家になった。


2 桃づくりで特に苦労したことは何ですか？

 昔は天気や病害虫の対策が分からず、収穫量が減って苦労した。


3 これまで一番思い出に残っていることは何ですか？

 昔大きな台風でほとんど桃が落ちてしまった。もうすぐ収穫だったのでとても残念だった。収入も減った。


4 工夫していることは何ですか？

 土づくり。また丁寧な消毒をして早めに対処すること。


5 桃の収穫量が減っているがなぜだと思いますか？

 昔に比べて気候が変わり栽培が難しくなっていること。後継者がいないこと。コストがかかることなど。


6 桃を栽培してよかったことはありますか？

 育てた桃を、美味しいと言ってくれたときはうれしい。体力的にきついが、いい桃ができたときによかったと思う。

7 若い農家さんにアドバイスはありますか？

 困った時に相談できる人、頼れる人をつくっておくこと。新しい情報を得るために勉強すること。

8 生産量の減少を食い止めるにはどうしたらよいと思いますか？

 後継者を増やすこと。まわりでは60歳で若いと言われる。高齢化している。もう一つは気候の変化に耐えられる品種にすること。今のところ、果樹には大きな被害はないが今後が心配。昔より収穫時期が早くなっている。また体力的にきつい。

4まとめ

調べ学習とグラフから、山梨県の桃生産量の減少が進んでいることが分かりました。インタビューをして、農家さんが高齢化していることや後継者がいないことが生産量の減少の大きな理由ではないかと思いました。また、気候の変化で桃作りが難しくなっていること、体力的に大変なことが分かりました。

福島でも同じような現状だと思うのに、どうして山梨よりも減少のスピードがゆるやかなのか疑問に思いました。何か対策をしているのか調べてみたいです。

生産量が減らないように、若い世代の人に山梨で桃作りをしてもらえるといいと思います。SNSで山梨の桃をピーアールしたり農作業を体験してもらおうような機会があればいいと思いました。また、猛暑の作業は危険なので涼しい時期に収穫できるおいしい品種ができればいいと思います。

この自由研究を通して、山梨の桃畑がこれ以上減らないといいなと感じました。気をつけて見てみると、耕作放棄された畑や住宅地になった畑が多いことに気がつきました。私は、山梨県の桃の生産量1位がずっと続いて欲しいです。祖父の手伝いをして桃の作り方を教えてもらいたいと思います。